

【拡張現実 (AR) による食欲増進】 IBM

①要約：

このアイデアは、IBM が開発した AR 技術を使用して、食欲の低下した認知症患者に対して食欲を増進させることを目的としています。AR を活用することで、現実世界において食べ物が美味しそうに見えるように工夫し、食欲を刺激します。

②目的：

このアイデアの目的は、認知症患者の食欲低下を防ぐことです。認知症患者は食事の摂取量が減少し、栄養不足に陥ることが多く、体力低下や早期の症状悪化に繋がる可能性があります。AR 技術を活用して食べ物を美味しそうに見せることで、食欲を刺激し、栄養の摂取を促します。

③新規性：

このアイデアは、AR 技術を用いた食欲増進の手法として、新規性があります。過去には VR 技術が認知症患者に対して利用されてきましたが、AR を活用することで現実世界の中で食欲を引き起こすことができます。また、食欲を刺激する要素として、視覚、音声、嗅覚などの要素を組み合わせる点も新しいアプローチと言えます。

④独自性：

このアイデアの独自性は、IBM の AR 技術を活用して、認知症患者の食欲を増進させる点にあります。AR を使用した食欲増進の手法自体は既に存在しますが、IBM が開発した独自の AR 技術を用いることで、よりリアルな食べ物の映像や音声を提供することができます。また、個人に合わせたカスタマイズや学習機能を持たせるなどの要素も独自性を持っています。

⑤経済価値：

このアイデアは、需要のある市場である認知症患者の食欲低下問題に対して解決策を提供することで、経済価値を持っています。認知症の高齢者の割合が増加している現在、食欲増進のための支援は重要な課題です。このアイデアは、認知症患者とその家族に対して、食事状況の改善を促し、栄養摂取の安定化に貢献することが期待されます。また、AR 技術自体も今後の市場成長が見込まれており、経済的な成果も期待できます。